

あいのかぜ

VOL. 17

2004・春号



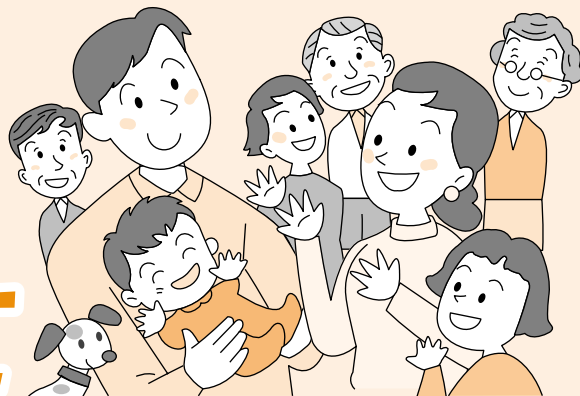
【特集】

みんなで子育て



“あいのかぜ”は、男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが男女共同参画に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。

みんな で 子育て



子どもを産み育てることは、夫婦にとって大きな決断であり、人生の転機でもあります。いままでのライフスタイルは一変し、仕事、趣味、生き方...いろいろなものが時として制約されるため、戸惑っている方もいらっしゃるかもしれません。


しかし、子どもはかけがえのない「宝物」です。子どもの笑顔を見ていると勇気付けられるものです。また、「子育て」は、各種保育サービスの利用、地域における相互協力、そしてパートナーとの共同によって、「子育て」に関わる皆さんにとって、とても魅力的な価値あるものになります。

今回は、現在の主な保育サービスの紹介や利用者などの声、また、地域で保育に携わるボランティアの方々などを紹介しながら、みんなですえ合う子育てのあり方を考えてみました。

各種保育サービスを利用する皆さんや提供する方々にお話を伺いました。

現在、富山市では、子育てに励む家庭を支える様々なサービスが実施されています。ここでは、知っておくと便利な「一時保育」、「病後児保育」、「地域健全育成事業」にスポットを当ててみました。

1 一時保育

保護者のいろいろな事情で、一時的に家庭保育ができない時に、市内22カ所（公立保育所11カ所、私立保育園11カ所）で、一時保育事業が利用できます。【費用：公立保育所... 1日2,000円・半日1,000円、私立保育園については各園にお問合せください。○保育日数：1ヵ月につき15日以内(平成16年4月から)】



利用している皆さんにお聞きしました。



- 自分のための時間づくりなどに利用して、リフレッシュしています。
(20代 2歳女児)
- 転勤族なのですが、自分が急に病気になって、自分達の実家も遠いため、すぐに駆けつけてもらえない時に、利用させていただき、本当に助かりました。
(30代 3歳男児)

～親子サークルに参加してみても～

市内の保育所(園)、幼稚園では、施設を開放して親子サークルを実施し、遊びを通じた親子のふれあいの場の提供や、しつけ・育児・健康などの情報提供や相談に対応しています。ここでは、参加している親子の声をひろってみました。

- 親子揃って友達ができ、入園前の不安が解消されました。
- 子どもは、手遊びが好きで、「トントンパチパチする」って楽しみにしています。
- 誕生会があったりして、記念になりますよ。
- 育児の悩みやいろいろな情報交換もできて、とても楽しい時間です。できたら、もっと回数を増やしてほしいですね。

2 病後児保育

保育所などに通っている子どもが病気回復期（主に、かぜ、消化不良症、麻疹、水痘、風疹、喘息、熱傷などにより安静を保つことが必要な状態）にあるため、集団保育や家庭での保育ができない時に、市内2か所で乳幼児健康支援一時預かり事業（病後児保育）が利用できます。【費用：1日2,000円で昼食・おやつ代を含む 利用期間：1回につき7日まで】





富山県立乳児院の皆さんにお聞きしました。

普段、仕事などでお子さんを保育所に預けている保護者の皆さんが利用されます。

「保育室」を使用した後は、消毒を欠かさず行い、清潔で明るい環境づくりに努めています。また、お子さんの症状に変化があった場合は、施設の嘱託医の診療を受ける（保護者負担）こともできますが、かかりつけの病院への受診を希望される保護者も多いので、連絡を徹底しています。

なお、感染力の強い疾患（インフルエンザ）等は、二次感染の可能性もあるためお断りしています。

3 地域児童健全育成事業

地域全体で子ども達を育てるという目的のもとに、市内40か所で、放課後に小学校の余裕教室などの公共施設を活用した、地域児童健全育成事業が利用できます。【費用：無料 利用時間：小学校の登校日...概ね放課後から3時間（土曜日・夏休みに開設している子ども会もあります。）】

地域で子ども達と触れ合う皆さんにお聞きしました。

りしん子供会の皆さん

昭和61年から開設しており、一日に20～30人（登録者は約130人）が利用しています。

主に、子ども達がみんなで遊んだり、勉強したりすることで、仲間との連帯感や協調性、他人に対する思いやりの心を育める環境作りに努めています。

この事業に携わっていて、利用していた子ども達が卒業した後にも訪ねてきて、思い出話ができたとき、続けてきて良かったと感じます。

いずみ子供会の皆さん

昭和43年から開設しており、一日に40～50人（登録者は約250人）が利用しています。

特に、近年は、ルールを守れない子どもが多いので、会独自の約束事を設けて、それに応じた「しつけ」も行っています。時には注意されて、「嫌だ」と言って帰ってしまう子どももいますが、翌日、とても元気な顔で来てくれます。短い時間ですが、「しつけ」は必要だと思います。

子ども達と触れ合っていて、家で親に話を聞いてもらえず、ストレスを抱えている子どもが多いように感じます。なるべく手を休めて聞いてあげるように努めていますが、是非、家庭で夫婦仲良く協力して、子どもの話を聞いてあげられるような環境づくりに努めて欲しいですね。



利用できる時間など、保育サービスの内容がそれぞれ異なりますので、今回取材しましたサービスを含めて、詳細につきましては、

富山市ホームページ <http://www.city.toyama.toyama.jp> または、広報とやま4月20日号（予定）特集ページにてご確認ください。詳しくは福祉保健部こども福祉課TEL443-2059までお問合せください。

江藤裕子さん

...図書の貸出や昔話などの読み聞かせを通じ、子ども達や保護者に本の楽しさ、お話の楽しさを伝えている。

自分の子育て中にサークル的なことから始めたのですが、その中で図書館での本の貸し返しが子連れだと大変という声があり、当時は個人で文庫を始めると2か月で50冊貸出が可能(現在は100冊)なので、サークル仲間の分も借りる感覚で自宅を開放したのがきっかけです。

子どもと本のある場所が好きなので、自分自身の居場所と思って、コツコツと長く続けています。また、子どもは、自分が本を好きでも、自分で本を買うことも、図書館に行くことも大人と一緒にできないので、いつでも読める環境を与えてあげたいと思いますし、保護者の皆さんにも、本の楽しさ、おはなしの楽しさを伝えたいですね。



室谷一成さん

...毎週月・木・土曜日に子ども達に野球の指導をしている。

自分の子どもが野球をする年齢になり、その時に校下の少年野球チームに関わったのがきっかけです。自分の子どもが小学校を卒業した後も、熱心に通ってくる後輩の子ども達の姿を見て、指導を続けようと思いました。大変けれども、逆に子ども達から元気ももらっています。



吉田直子さん

...民間ベビーシッター派遣会社代表

夫の事業をサポートする際に、突然の仕事などの場合に自宅で見てももらえるような機関があればと思い、それならと自分で起業しました。

自分が考えていた以上に需要があり、平成8年に設立して以来、増加し続け、現在では月約300人の方々に利用いただいています。特に、3歳未満の子どもを持っている方が多く、その8割は在宅で子育てをしておられます。

利用される主な理由として、普段は保育所などに預けている子どもの病気時や、在宅で子育てしている方自身の病気時、余暇を楽しむ場合の利用などがあります。共働きで、小学校に通う子どもを持つご夫婦は、下校後、親が帰宅するまでの間、在宅での預かりとして、ベビーシッターを依頼したり、夏・冬休み期間中に長期間利用される場合も多いです。

今後、保育サービスを提供している側のネットワーク(行政・民間を問わず相互に連携をとり、利用者に広く情報を提供してサポートする体制)を作れたらと思っています。例えば、保育所に預けている子どもが急な病気になった際や、保護者が仕事などでどうしても迎えにいけない時に、保育所から情報提供を受け、民間のサービスを利用できるなら便利だと思いませんか。



田中世津子さん

...保護者と子ども達に手作りおもちゃの作り方を教えている。

平成4年12月に、手作りおもちゃのサークルを立ち上げ、現在、毎月第2月曜日に富山市星井町児童文化センターで、講習を行っています。

主に、身近にある材料を使って、30分間くらいで完成するようなおもちゃの作り方を教えています。

確かに、お店などで買えば、すぐ手に入るし、とても楽しく遊べるとは思いますが、保護者の皆さん自身がお子さんの為に作ること、そして、自分の親が作るのを「自分の為に作ってくれている



取材時は、牛乳パックなどを使って、「雪だまロケット」を作っておられました。

んだ」と理解しながら待ち、そのおもちゃと一緒に遊ぶことは、親子の信頼関係を築く上で、とてもよい手段ではないかと思っています。

子どもを愛しみ、子育てを大切に考えているお父さん方にお話を伺いました。

普段は仕事が忙しいため、あまり子どもの相手をしてあげられないことが多いので、休日には思う存分遊んでいます。

先日、私は、大きなおにぎりを2個作り、子どもと一緒にスキー場へ行きました。子どもが楽しく滑る姿や美味しそうに手作りおにぎりを口一杯にほおぼる様子をビデオカメラに収めました。夕食後に、家族みんなで映像を見ながら、とても楽しい時間を過ごせました。自分だけでなく、家族みんなで子どもの成長する姿を共有することで一段と会話が弾み、家中が楽しく和やかになりました。

3世代同居 30代 5才男児

私自身、アウトドアが好きで、家族みんなでキャンプに行くのですが、あまり娯楽的なものを持っていかず、星空でも見ながら、家族みんなで話し合える時間をたっぷり作るようにしています。普段、仕事で帰りが遅く、子どもと顔を合わせる時間が少ないので、子どもの成長を感じ、また、父親としての存在を伝えるいい時間だと思っています。

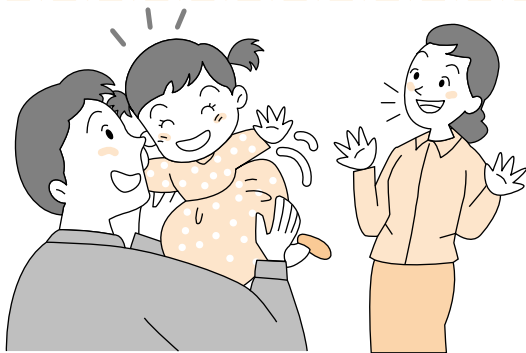
40代 12才男児、7才男児

風呂に入れる時に、子どもがお湯をパチャパチャ飛ばしてじゃれてくるのがかわいくて。それで、風呂掃除が日課になり、今では掃除や他の家事にも楽しみを感じるようになりました。

30代 1才男児

単身で県外に赴任していて、週1回富山の実家へ帰っています。もちろん、3人の子ども達(と妻)に会うためです。かわいい笑顔は自分にとって、元気の源です。普段から自分の傍にいと当然すぎて気づかないものかもしれませんが、今、子ども達と関われる少ない時間を大切に感じながら来週も会えることを楽しみにしています。

40代 10才女児、5才男児、3才男児



「育児は育自」といいますが、子どもと接していると、はっと気づかされることがあります。

先日、子どものしたことにと怒ると、「お父さんは自分が守れないのに、私が守らないと怒る。大人だから、子どもだからって分けたら駄目よ。」と逆襲を受けてしまいました。親として、人としての態度を省みるきっかけをもらっています。反省。反省。

30代 4才女児、1才男児

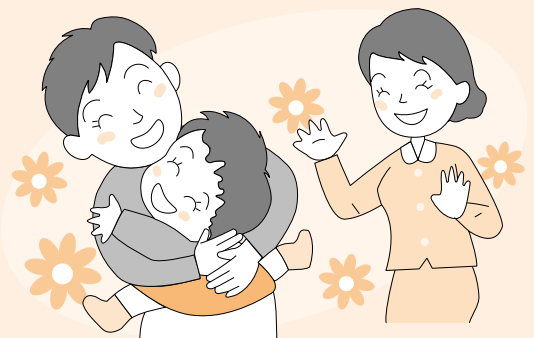
子どもを育てることは、パートナーとの共同作業であり、子どもの成長を楽しみながら、大切な時間を共に生きるということです。こうした中で、お互いが人生にとって必要なことを学び、家族愛を育んでいくものではないでしょうか。

これまでは、出産・授乳を行う母親が子育ての責任を負うことが当たり前のように考えられ、母親だけが自分のライフスタイルを制限され、常時、子どもと一対一でいることにストレスを抱える傾向が見受けられました。

しかし、最近では、様々なニーズに応える各種保育サービスも充実し、育児以外の活動と両立できるようになりました。

また、子育てをしている仲間や経験豊富な先輩方と地域での交流が増え、みんなでより良い子育てをする環境が整ってきています。

これから始める子育ては、パートナーと助け合い、喜び、悩み、そしてお互いを思いやりながら、「宝物」を育てていく楽しい子育てにしていきたいと思います。



男女共同参画に関する様々なイベントに参加して

全国男女共同参画宣言都市サミットinふくい

11月14日
フェニックス・プラザ(福井市)にて

平成6年度から男女共同参画都市を宣言する市区町村が増え、平成15年度末までに全国で、68市区町村が都市宣言を行っています。(富山市は平成11年9月に宣言しています。)

この全国男女共同参画宣言都市サミットは、男女共同参画宣言都市奨励事業として、内閣府男女共同参画局及び開催自治体との共催により実施されています。

今回は、「ともに創る……女と男のしあわせ法則」というテーマで、平成10年度に宣言を行った福井県福井市において開催されました。

オープニングには、えちぜん剣舞道の皆さんによる「YOSAKOIイッチョライ」の演舞と私立北陸高等学校演劇部の皆さんによる創作演劇「雨ときどき晴れ」が上演されました。特に、演劇は、共働き夫婦の妻に転勤辞令が下り、夫が家事をいかにしてこなすかという内容で、現実には起こりうる場面設定と高校生の演技力に感心しました。(結論は、適齢期の息子が彼女を連れてきて紹介する際、結婚後も仕事を続けたいという彼女を息子が理解し応援している姿に、夫も考え方や生き方を変えていくという内容でした。)

次に、平成15年8月から男女共同参画局長に就任された名取はにわ氏からの男女共同参画推進本部報告に続いて、テレビ等で活躍されている弁護士・男女共同参画会議議員の住田裕子氏による「今こそ、レッツチャレンジ」と題した基調講演、そして男女共同参画宣言都市の10人の首長によるシンポジウムが行われました。

講演において住田氏は、現在の日本はこのまま少子化が進んでいくと、国自体が衰退してしまうことが考えられ、今こそ、女性・男性を含めた働き方の見直し、子育て中の労働者へのワークシェアリングが大事であり、今後、女性があらゆる場面で「チャレンジ」していき、男性を元気にし、そして社会全体に活気を与えようと参加者に呼びかけ、会場全体が元気に包まれました。



男女共同参画とやま市民フェスティバル～女と男のつどい2003～

11月30日
富山市男女共同参画推進センター・富山県民共生センターにて

「とやま発“女と男の夢のせて”」というテーマで開催された今年の男女共同参画とやま市民フェスティバルでは、午前中は男女共同参画について分かりやすく紹介したコントや「老い支度」など、様々なワークショップが開催されました。中でも、今回男性向けの講座が催され、「男性料理教室」では、魚を慣れない手つきで一生懸命さばいている男性の姿がとても微笑ましく、「パパと遊ぼう」では、子どもとの様々な遊びを楽しく体験しているお父さんの姿が印象的でした。このフェスティバルの意義を感じる光景でした。

午後からは、フェスティバルのセレモニーと市内中学生を対象とした「男女共同参画社会づくり作文コンクール」の優秀作品に対する表彰式が行われ、最優秀賞受賞作品の発表がありました。

続いて、テレビなどで人気の東海林のり子氏による「皆がしあわせになるための男女共同参画」と題した講演が行われました。家庭における男女共同参画を進める秘訣として、夫を誉めてやる気を育てる方法の紹介を始め、お母さんが明るく元気に笑っている家庭は家族みんなが明るくなることなど、絶えず前向きな生き方が伝わってくると共に、演台を飛び出して身振り手振りを交えての楽しい話し振りに、会場全体が明るい笑いに包まれました。



また、講演会場の外には、様々な団体・グループの活動がパネルで発表されており、それぞれの目的に向けた活発な動きを通して、女性の社会参画促進への大きな流れを感じました。



作文コンクール

男女が対等なパートナーとして、互いにその人権を尊重しつつ、責任を共に分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現に向けた意識を高めるため、市内の中学生を対象に、男女共同参画に関する作文を募集しましたところ、数多くの作品が寄せられました。

優秀作品をご紹介します。



優秀作品 (応募総数95点)

最優秀賞

「輝け!! 男女平等の心」

岩瀬中学校 1年 川崎 菜緒

優秀賞

「男女平等についての私の意見」

奥田中学校 3年 須藤 友香子

「男女平等についての僕の意見」

奥田中学校 2年 福田 幸市

「男女平等について」

三成中学校 3年 森 彩香

「本当の男女共同参画社会」

奥田中学校 2年 頼 成 航 平

最優秀賞

輝け!! 男女平等の心

岩瀬中学校 1年 川崎 菜緒

私の家は、父も母も働きに出ています。

家事はというと父の「男は仕事、女は家事・育児!!」という固定観念が強く、ほとんど母が家事と子育てをしていました。

しかし、そんな父の考えを変える出来事が起こりました。

それは、三年前に母が病気で入院してしまったことです。

母の突然の入院で、我が家はもう大混乱となりました。掃除、洗濯、料理など、慣れないことはかりで、私は改めて母の大切さが身にしみました。

前までは、家事なんか全然手伝ってもくれなかった父が、自分から進んで家事をしてくれるようになりました。

父も、「自分も家族の1員なんだから、助け合わないと...。」と、思ってくれたのではないかと思います。

数週間後、母は無事退院したけれど、まだ病み上がりだったので、家族みんな母を支えました。

しばらくして、母は仕事に復帰しましたが、ますます仕事の量が増え、大変そうに見えました。

しかし、今度は違っていました。なぜなら、父が家事を手伝ってくれたからです。三年前のように、男は仕事で女は家事・育児と決めつけてしまわなかったからです。男の人も家事や子育てに参加するべきだと思います。

父は今、掃除や洗濯をしたり、参観日も母の代わりにきます。それでも父は、毎日を楽しそうに過ごしています。母はいきいき仕事をしています。

私はお互い支え合い、助け合い、協力し合つのが大切だと思っています。

男女差別なく過ごせる環境が必要ではないかと思っています。

女性のための 各種相談事業を実施しています

富山市男女共同参画推進センターでは、女性のための様々な相談窓口を設置しています。同性である女性の相談員が対応いたしますので、日ごろ悩んでおられることがありましたらお気軽にご利用ください。

悩み相談

女性が生活する上での様々な悩みに認定カウンセラーがアドバイスします。

月1回(土曜日) 2時間 13:00~15:00

からだ相談

女性特有の身体についての悩みに産婦人科医師がお答えします。

月1回(火曜日) 2時間 18:30~20:30

こころ相談

自分の心が不安定と感じられる悩みに精神科医師がお答えします。

隔月1回(水曜日) 2時間 14:00~16:00

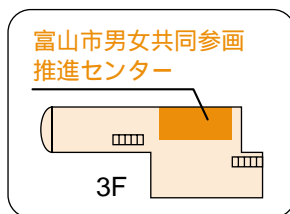
グループ相談

同じ悩みを持った同士が話し合いを通して、問題解決を図ります。

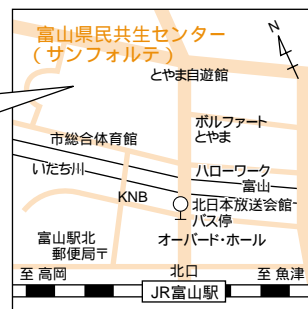
前・後期各1講座(5回コース) 2時間

相談実施日は、広報とやま毎月20日号、もしくは富山市男女共同参画推進センターホームページ(<http://www.city.toyama.toyama.jp/institution/suishin-center/index.html>)等にてご確認ください。

場 所	富山市湊入船町6-7 富山市男女共同参画推進センター (富山県民共生センター3階)
費 用	無 料
予約方法	予約制になっておりますので、事前にご予約ください。(託児 有) TEL 433-1760
そ の 他	女性のための相談の他、法律相談や子育てに関する相談、また、男女共同参画に関する各種講座も実施しています。



富山駅北口より徒歩10分
バス停「北日本放送会館前」から徒歩5分



編集後記

雪国育ちではない私は、豪雪と言われる富山の雪を見ながら様々なことに思いを走らせます。

昔の人は、雪が降り続けている間はどのような生活をしていたのだろうか?特に大雪の中、子ども達は外にも出られないし、どのように一日を過ごしていたのだろうか?お友達が遊びに来れない時も、兄弟姉妹が多ければ、楽しく遊べたのかな?お父さんが売薬業だったら、帰ってくるのを待ちわびているのかな?などと。昔の人々の生活スタイルが気になる今日この頃です。 小山ゆづ子

子育てをして11年ですが、私が母親になった頃の子育ての環境とは少しずつですが違ってきていると感じます。育児休業制度が推進され、専業主婦を選ばざるを得なかった人も職場復帰という選択ができるようになりました。

また、行政や民間のサービスもどんどん充実しています。

今回紹介した「みんなで子育て」をパートナー、地域の方々にはほんの少しでも気に留めていただけたら、虐待などの痛ましい事件は起こらないのではと思います。 布施小百合

春号は、子育てを周りからサポートされている方々にお話を聞きました。

(子育ては自分育て)という話を聞いたことがあります。確かに、子育ては、忍耐と知恵と体力が必要な、大変な業ですが、達成感は確実に感じることができます。

理想通りに行かなくても、子育てを終えると、一応やれやれホッとします。

至福の時ですね。

夜久 文子

タイトルの“あいのかぜ”は、「私(英語でI)の風」、「あいの風(富山弁で北東からの涼しい風)」、「愛の風」を表しています。

編集・発行 富山市役所市民生活部男女共同参画課
〒930 8510 富山市新桜町7-38 Tel. 076 443 2051
Fax. 076 443 2176

“あいのかぜ”へのご意見・ご感想をお待ちしております。
[宛 先] 〒930 8510 富山市男女共同参画課(住所記載不要)
[アドレス] danjyo_01@city.toyama.lg.jp